

2022年度ドイツ経営経済学会第83回大会参加報告

学習院大学 小山 明宏

2019年まで、従来の Pfingsten（聖霊降臨祭、5月末あるいは6月初め）に行われていたドイツ経営経済学会年次大会が、2020年の第82回大会から、大学が春休み中である3月に行われることになり、ところがそれが新型コロナウイルス騒動で史上初めて急遽オンライン開催になったのは忘れられない。

そして同年7月の学会事務局からのメールで、2021年3月にデュッセルドルフ大学で開催予定だった第83回年次大会が早々と取り止めになり、2022年3月8～11日へと延期されたこと、そして2022年予定だったリュネブルグ大学での大会は2023年へと延期になったのも記憶に新しいところである。

筆者は2020年3月の大会にオンライン参加し、そんなわけで、今年のデュッセルドルフ大学での第83回大会にも、直前まで様子を見ていたものの隔離期間などの条件から、結局オンライン参加にならざるを得なかった。

今大会の統一テーマは *BWL. Weiter Denken* で、副題は *Aus der Wissenschaft - für Unternehmen - in die Gesellschaft* である。ドイツの経営学会の創立100周年記念大会ということで *08 - 11 März · digital* というオンライン（中心）の開催となった。

今大会の目標は、経営学を、ドイツの経営学会と力を共にして、個々の専門の限界を超えて、今後数年間で生じる、強力なプログラム上のダイナミクスを伴う、経済と社会の変革プロセスの中での将来志向の科学原理として、提示することだったとされる。そこでは、経営学がこれまでに科学として何を達成したかを示すだけでなく、それがどのようにさらに発展する必要があるかについて考えるためのきっかけを与えることが目標、とされていて、それに対する多くの正のフィードバックは、それが成功したことを示しており、それについて非常に満足している、と結んでいる。

これだけではどうも具体的なイメージはなかなか湧かないが、一昨年のフランクフルトでのオンライン開催で新会長になったハンス・ウルリッヒ・ブール教授（アウグスブルグ大学）は基調講演で次の3点を重要なものとして挙げている。

0 気候に優しい技術とインターディシプリナリーなノウハウによって、持続的な経済成長への道は、連邦気候保全法 (*Bundes-Klimaschutzgesetz*) と調和しつつ成功しうるし、そうでなくてはならない。

1 私たちの経済力と競争能力の獲得と整備にあたり、我々が企業は気候保全において先頭を切る役割を果たすことができる。

2 そこで経営学は重要かつ成長を促す役割を持つ。それはドイツテレコムのカラウディア・ネマトがキーノート講演で強調し、指摘したように、社会的に望ましく、経済学的なロジックを持って、実現しうるものであることである。

わが国企業でももてはやされている Nachhaltigkeit(サステナビリティ)はドイツの経営学会でも人気で、ただ、これはどうも正体のはっきりしない用語・概念という気がしてならない。ドイツの経営学者たちに Nachhaltigkeit について確認しても結局は具体的な説明が得られないと感じるのは、筆者の勉強不足も起因していようが、やはり（良く言えば）とても多様な概念なのだろうと思う。

そんなわけで来年は3月にリューネブルグ大学で第84回年次大会が開催される。リューネブルグはドイツ北部の地味な街だが、この機会に日本経営学会の先生方がいらっしゃることを期待したい。